

教員紹介

先端的研究の推進

本誌では、今号より、「教員紹介」と題してご自身の研究や教育観などを語っていただくページを設けました。

第1回は、大学院人間文化創成科学研究科先端融合部門先端融合系の番雅司教授に、お話を伺います。

番先生は20年間の日立製作所基礎研究所勤務（主任研究員）を経て今春本学に着任されましたが、研究所時代より玉川大学学術研究所特別研究員、東京電機大学客員教授、独立行政法人情報通信研究機構特別研究員なども歴任されています。主要な研究分野は、量子情報理論、量子光学、非平衡量子統計力学です。

Q ご専門分野について、実用化された段階で我々の生活にどうかかわって来るのか、教えてください。

A 今のITというのは古典物理学、古典情報理論に基づいているわけですが、量子力学に基礎を置く情報理論に基づいた新しいITが構築されると、強固なセキュリティ技術や高度な情報処理技術が可能になると期待されています。量子暗号や量子コンピュータと呼ばれています。まだまだ先のことですが。ただ、私の興味はそういったITではなく、あくまでも基礎物理学としての量子情報です。

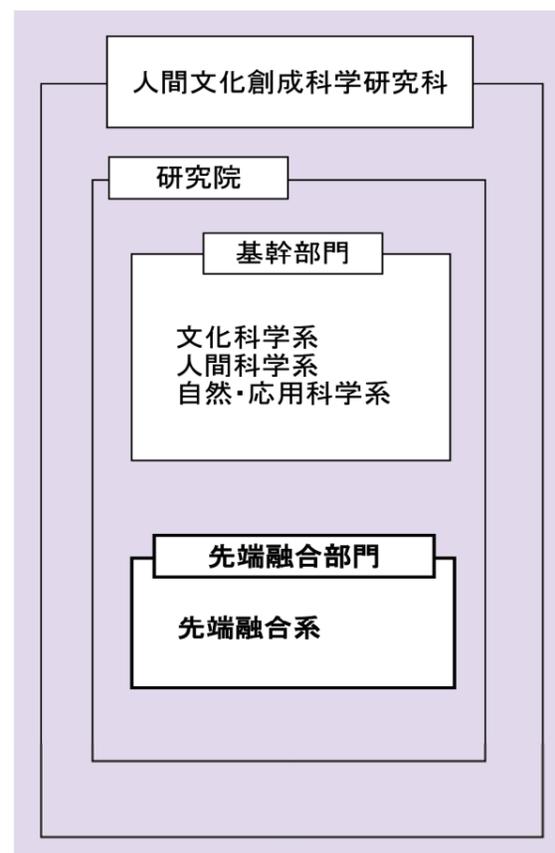
Q 小さい時からこの道に、とお考えでしたか？

A いえ、理数系は好きでしたが、研究者になりたいと考えようになっただけで大学時代からです。それと、国語など文系の教科が嫌いだったので消去法で理系にということもあった気はしますが。

番先生が所属するのは4月に創設された大学院人間文化創成科学研究科先端融合部門。「21世紀型お茶の水女子大学」による新たな知の創成を担うべく、活躍が期待されています。

Q 民間の研究所からおいでになられたわけですが、産学連携についてどのように思われますか？

A 製品開発競争が激しい状況下では企業が基礎研究に投資できるリソースは限られているので大学との共同研究は重要です。大学も企業の研究所の最先端の研究設備を利用できるのはメリットでしょう。両者のベクトルが一致していれば協働の効果が期待できると思います。



Q ご指導されるなかで、学生に言いたいこと、伝えたいことはなんですか？

A 4月からスタートしたばかりですが、他の大学で非常勤をしていた経験と併せて考えてみると、自分で考えて問題を解決しようという意欲を持った学生が少ないのは残念ですね。是非、自分自身で考える力を身につけて欲しいと思います。その為に、もっと教員を利用してほしいですね。

Q それは、今まで学生を受け入れる側にいらした立場の実感ともかわりがありますか？

A 企業の側の実感では、やはり配属されて来た新人を見ていると大学で何をしてきたんだと言いたくなる人も結構居ます。また、言われたことはやるが、自分で考えて行動しないとか。言い方が良くないかも知れませんが、本来、大学が卒業を認めることは、その学生の学力（能力？）に対する品質保証のはずです。企業が不良品を世に出したら社会問題になりますよね。政府の会議で産業界の代表から大学への予算配分に関して厳しい意見が出されているようですが、原因の一端はこのあたりにあるのかも知れませんね。

どうもありがとうございました。

インタビューを終えて

まるで門外漢の聞き手の質問に、物静かかつ理路整然と答えて下さいました。その中で、「ご研究分野が将来の我々の生活にどんなふうに関わってくるのでしょうか」という質問に対し「どんなウレシイことがあるかといいますと」と言い直された時の目の輝きがとても印象的でした。御多忙の中、お時間を割いて下さった事に重ねて謝意を表したいと思います。

小坂圭太（人間文化創成科学研究科 基幹部門文化科学系 准教授）



Masashi Ban
番 雅 司

番先生からお茶大生へのメッセージ

学生の皆さんは、各自の専門分野での基礎知識をしっかりと身につけて、自分の頭で考え、判断し、行動する人間になって欲しいと思います。その為に、大学というところを大いに活用してください。

更に詳しく先生のご研究や講義内容等について知りたい方は、先生のホームページ <http://sofia.phys.ocha.ac.jp/qinfo/>へ。

教員紹介
先端的研究の推進